

2021-22RI 会長: シェカール・メータ ガバナー: 水村雅啓 会長: 横田康介/幹事: 大谷純一 例会日: 木曜日
午後 12:30 開会 会場: 行田商工センター402 号室 編集・発行: クラブ会報委員会 委員長: 園部良一



リモート例会

第2650回 2月第1例会 2月 3日(木)

〔卓話「図書の面白話」 行田市副市長 石川隆美 様 〕

- 点 鐘 横田康介会長
- ロータリーソング、4つのテストの唱和は、省略します。
- 会長の時間 横田康介会長
- 幹事報告 大谷純一幹事
- 誕生祝(6名)

- ロータリーの友読み処 金子幸弘委員長
- 卓話 【図書の面白話】 行田市副市長 石川隆美 様
- 謝辞 横田康介会長
- 点鐘 横田康介会長
- 司会 大谷純一幹事

○点 鐘 横田康介会長

○幹事報告



大谷純一幹事

皆さん こんにちは！ また、石川副市長さんには、ご多用中そしてこのような状況の中、リモート卓話ご講演にお越しいただきありがとうございます。

また、横田年度の事業においても様々なアドバイスを頂きありがとうございます。おかげさまで市民の方々にお役立てできそうなミニ図書館車「たびりん号」がまもなく完成というところに来ています。

2月19日に開催予定の創立55周年記念式典の中で贈呈式を計画していましたが、新型コロナウイルスの猛威により、中止に追い込まれてしまいました。

しかし、贈呈式だけは行いたいとの思いから3月17日に寄贈させて頂く運びになっております。

ご案内状をお送りさせて頂きましたので、是非ともご出席いただきますよう

宜しくお願い致します。

会員の皆様には、このような状況ですので 2 月の例会は本日の1回だけということになりますが、ご理解頂きますよう宜しくお願い致します。

ただ、今回のオミクロンというウイルスは、終息も早いと聞いておりますので、3 月からの例会等につきましては、状況を見極めて早めにご連絡するように致しますので、宜しくお願い致します。

それから、1月の理事会に於いて会員推薦書が提出され承認を得ましたので、皆様にご紹介させていただきます。氏名は 大石理恵さん 行田市栄町の小沢工業株式会社の代表取締役でいらっしゃいます。職業分類としては石油製品販売業となっております。

これより2週間以内に入会にご意義のある方は、申し出て頂きたいと思っております。

もし無いようでしたら情報委員会を開催頂きたいと思っておりますので宜しくお願い致します。

以上です。ありがとうございました。

○お誕生祝い

古沢勇治会員(02.09)、
清水瀧男会員(02.15)、
吉岡浩司会員(02.25)、

小池俊輔会員(02.11)、
渡辺久記会員(02.17)、
柿沼孝枝会員(02.26)

松岡保会員(02.14)、
小林一好会員(02.21)、
()内は、誕生日です。

お誕生日おめでとうございます。

○ロータリーの友読み処

金子幸弘委員長



金子幸弘委員長

横書き P5 RI 会長メッセージ

2月23日はロータリーの創立記念日です。ロータリー奉仕デーイベントを実施し、重点分野におけるロータリーの活動を発表しましょう。
その一例としてインドで糖尿病にかかっている人は7400万人いて主な死因の一つとなっているそうですが、その半数の人が糖尿病の診断を受けていない状態というところで、ロータリーとインド糖尿病研究協会が協力して糖尿病検査を実施して、患者を把握して、早期に治療を行ってもらうために全国的に無料の血糖値の検査をしたそうです。

P7 特集 平和構想と紛争予防月間

青少年交換は未来平和へのギフト

ロータリーでは青少年交換をしていますけどどの様な事業であるかを特集しています。
異文化を理解し、国境を越えた友情と信頼を築く機会をもたらすことで、世界の平和を少しずつ実現できると私たちは信じています。と語っています。

青少年交換学生が考える平和とは

実際、交換学生の一人は「まずは世界で起きている事象に興味を持ち、学ぶこと。
異文化と触れ合い、大きな「違い」があると知った上で、それを乗り越えて対話し、相互理解すること。一人一人がこれを実践すれば、平和実現に向けた取り組みをおのづと考えるようになるでしょう。と語っています。

縦書き P4 武井武雄の世界

長野県岡谷市にあるイルフ童画館館長 山岸 吉郎氏

ちなみにイルフとは「古い」を反対に読んで新しい、という意味を込めた言葉で武井の造語という事です。
コロナ禍の世界になった今、モノの生産性を重要視し、音楽なり絵画あるいは小説、詩など芸術の世界は「生活の余裕を持った時に初めてかなえられるもの」
二の次だよね。という雰囲気がありますが、そのような状況に美術館長としてどのような形で支援したらいいのか？を考えたそうです。

その中で武井武雄の一枚の絵「ありとセミ」P5の紹介をしています。

「なつのあいだ、せみは、まいにちうたいたい。ありは、せつせとえさをあつめ。ふゆになっても、ありは、えさにこまりませんが、えさなしのせみはどうすることでしょう」という文章が添えられているそうです。

結末は書いていません。原型であるイソップのアリとキリギリスのでも結末は書いていないそうです。この話が世界中に伝わる中で、勤勉こそ美德という話になってしまいましたが、アーティストであるセミ、キリギリスは怠け者でない、アーティストは魂を懸けて音楽を提供することにより、人々の人生に潤いを与える存在である。という意味があるのでしょうか。人生には音楽も大切だという気持ちで武井もこの絵を描いたのではないかと語っています。

ある美術家の言葉を思い出しました。

美しいという文字は3000年前のモンゴルでできたそうで

羊に大きいという字が付いています。

羊はモンゴルの人にとって生命線で羊の肉は食べることができる。

羊の乳は飲むことができる。毛皮はまとうことができる。

その羊が大きいという事は生きていけるという意味で

美は生きていくことにかかわる本能に刷り込まれているのではないかと語り。

美味しいも同じで、美しいと感動することは勇気がでる、生きる力が湧いてくる。と語っています。

P14 柳壇の中で

『アベノマスク やっと出番で 靴磨く』

皆様、アベノマスクどうされていますか？ 私は、どこかにしまい忘れてしまいましたが、このような使い方があったのかと感心しました。

〇卓 話

行田副市長 石川隆美 様



【行田副市長 石川隆美 様】

行田副市長の石川隆美です。宜しくお願い致します。

まず最初に作:新美南吉、絵:黒井健の「手袋を買いに」という本の一説を朗読させて頂きます。

新美南吉の優しい言葉づかいと、ほんのりとした黒井健の絵が程良くマッチした本に快い感動を覚えます。この様に本から得られるこうした感動を大切にしたい文化を今後とも進めていきたいと考えます。

そこで、この度、行田ロータリークラブさんから寄贈頂いた「ミニ移動図書館」を有効に活用させて頂きたいと思います。

その昔に、県立熊谷高等学校の卒業生の159名の学友会から1697冊の本が行田市に寄贈され、無料で貸し出しをしました。元々は有償での貸し出しであったものを無料での貸し出しを行うために行田市にて、

図書館を造りました。現在、蔵書30万5000冊となりました。コロナ前には20万5000人の来館数となりました。また、お話の部屋の一角にロータリーから頂いたDVDや本の約5千冊を設置させて頂いています。

また、「図書館が遠く、本を借りたくとも借りられない」といった声に応えることが出来るのが、「ミニ移動図書館」となります。

2020年の調査では全国の図書館は、3316館あり、その中で542台の移動図書館が活躍しています。都市数だと41都市が移動図書館を持っています。行田市では市内12校を回り1ヶ月1回のペースで巡回しています。移動図書館には、11062冊の本があり、6942人が利用しています。

約1ヶ月に一人2冊を借りていることとなります。しかしながら大型免許を持つ運転手さんが3人しか居ないため、今回の普通自動車免許で乗れるミニ移動図書館の位置づけは大変に大きい。

質疑として、現在どの様な蔵書を必要と考えていますか?という質問に対し、副市長は、長い年月とともに本は古くなりますので、どのような本であっても頂けることは、ありがたいこと。ここにきて、もっともっと本を見て頂きたいと考え、図書環境の改善の必要性を強く感じています。

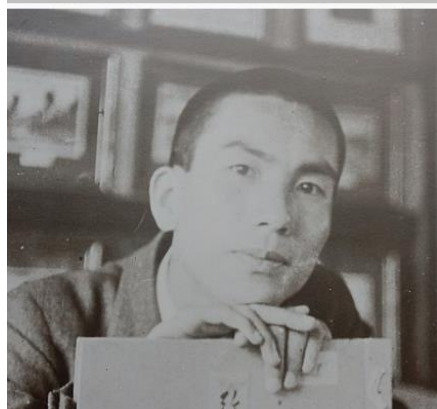


絵本『手ぶくろを買いに』のあらすじ

きつね親子の住むところにも冬がやってきました。子ぎつねが外に出ようとすると、あたり一面雪景色。初めての雪に、子ぎつねは困惑しながらも遊びに出かけていきます。子ぎつねが外から帰ってくると、冷たい雪で手が牡丹色に。それを見た母ぎつねは、手袋を買いに町へ行こうと考えました。さっそくその日の夜、きつね親子は真っ白な雪に照らされながら夜道を歩き、町へと出かけていきます。町の街灯が見えてくると、母ぎつねは昔の嫌な出来事を思い出します。友達ぎつねと町に遊びに出かけたときのこと、友達がイタズラをしたので町の人に散々追いかけて回さ

れたのです。そして、命からがら逃げたというのです。子ぎつねは早く町へ向かおうとしますが、母ぎつねは嫌な思い出が蘇って足が竦んでしまいます。そして迷った挙句、子ぎつねをひとりで町へ送り出すことにしました。母ぎつねは、子ぎつねの片手をしっかり握ると、人間の手に変化させました。子ぎつねが人間の手になった自分の手を見ながら不思議そうにしていると、母ぎつねが人間の恐ろしさを教えます。人間は相手がきつねだと分かったら手袋を売ってくれず、それどころか捕まえて牢屋の中に閉じ込めてしまうと言うのです。きつねだと気づかれないように、まず、お店に着いたらドアをノックし、それから「こんばんは」と挨拶。ドアが開いたら人間の手だけを出して、手袋を買うようにと母ぎつねが教えます。母ぎつねが教えたとおりに子ぎつねは手袋を買ってることができたのでしょうか。きつね親子の会話、雪の質感、夜の灯しびなど幻想的で温もりの伝わってくる絵本です。

新美 南吉
(にいみ なんきち)



新美南吉は大正2年7月、愛知県知多郡半田町（現在の半田市）に生まれました。幼くして母を亡くし、養子に出されるなど寂しい子ども時代を送り、長じてからは健康に恵まれず、初めての童話集を出した翌年に29歳でこの世を去りました。

しかし、その一方で文学の師である北原白秋、先輩詩人の巽聖歌・与田準一、恩師の遠藤慎一・佐治克己、愛した女性の木本咸子・山田梅子・中山ちゑ、そして小学校や女学校での教え子達など数多くの出会いに恵まれました。南吉がその短い生涯に数多くの名作を書き残すことができた背景には、こうした人々の支えがあったのです。

新美南吉はふるさとの知多半島を舞台に、庶民の生き様や子どもの生活、身近な動物たちを描きながら、心の通い合いや美しい生き方といった普遍的なテーマを、ストーリー性豊かに表現しました。その物語は美しい文章、巧みな心理描写、ユーモアに彩られ、彼の死から75年以上経った現在でもますます多くの読者に愛されています。

彼がのこした作品は、童話、小説、童謡、詩、戯曲、俳句、短歌など多岐にわたり、その数は1500を超えます。なかでも小学校の国語科教科書に半世紀以上も載り続けている「ごんぎつね」は、世代を超えた国民的文学として親しまれています。

絵を担当した【黒井健】氏の著書は200冊を超える。「手ぶくろを買いに」（日本の童話名作選）や代表作「ごんぎつね」「12の贈り物 - 世界でたったひとりの大切なあなたへ」シャーリーン・コスタンゾ/色鉛筆を用いた独特の繊細な絵柄で知られる。1983年、第9回サンリオ美術賞受賞。2006年、『またたびトラベル』で、第20回赤い鳥さし絵賞受賞

〇点 鐘

横田康介会長

2月・3月のお知らせ

日時 2022年2月11日(金)Intercity Meeting 中止
2022年2月19日(土)55周年記念式典 中止
2022年3月3日(木)例会『設計の魅力』藤間利一会員 12:30-13:30 ガーデンパレス
2022年3月17日(木)例会『55周年記念事業』たびりん号授与式 11:00-12:00 行田市立図書館
2022年3月27日(日)地区大会 13:00-17:00 ウェスタ川越

